

奥又奥本日记

大正元年十一月下迄起筆  
日二年 月 至儿

特別  
14  
1919  
560



176825

雙魚巻起石注

大正元年十一月二十日以降



十一月

二十日

明早の候より五時ありし、出版印  
大田誠之助氏より海印、海印寺  
一森式、臨海寺、寺塔、寺舎、共  
共立のちおのちを、外中  
店田、中嶋、中嶋、中嶋

らうしゆ書方獨負(教書)見り記を  
読む。漸次をぬるす。平山を  
とゆふ。二三の書とをいふ。あつた  
表干儀の四くをさす。増田を記す  
て家内を記す。身全記を記す  
す。と叙み。楽生。川港の文。流記  
会。別を記す。バル。ド。レ。コ。リ。ル  
二十世紀を讀す。と夕湯矣

二十一。

時。廣田。勲。を。記。す。元。政。の。功。績。一  
田中。一。印。交。に。來。ゆ。各。の。長。を。記。す。

新。打。少。江。と。い。ふ。大。隈。侯。大。公  
史。の。功。績。を。記。す。伊。能。の。件。を。記。す  
し。ゆ。日。と。大。隈。侯。の。件。を。記。す。大。公  
史。の。功。績。を。記。す。元。政。の。功。績。を。記。す  
新。田。侯。と。い。ふ。大。隈。侯。の。件。を。記。す  
伊。能。の。件。を。記。す。大。隈。侯。の。件。を。記。す

二十二。

而。坂。入。準。三。十。五。功。績。を。記。す。坂。入。仁  
三。印。大。公。井。原。と。種。村。宗。八。來。ゆ  
伊。能。侯。の。件。を。記。す。伊。能。侯。の。件。を。記。す  
季。三。十。五。功。績。を。記。す。大。隈。侯。の。件。を。記。す

くまを及、田中迄手紙書し分六  
日間の路とせしこる田舎穀千二  
田に年取る及入進接収の成生  
株十株を及入、坂の多る物多  
高持義を依託し拙者二  
托す、徳志を託す最款の下者用  
島前崎男、まじく押さをも信託  
す、まじくも路向を言ふ事あるも  
無難縁を為し、ある田に手紙書  
と影み下田路り、持たざるも  
海に、路向を言ふ事あるも  
去る七坂に、一らしと抱、念に  
也

東林原製

あを流す、五めか石川る何地も  
一、は菜花、視、思入と世に  
行き、丸め、思入、かへ、能  
母の赤と接あり

二十三

而、は、所、祭、り、休、息、系、朝、起、二、三、の、吉  
状、を、ゆ、り、う、唐、の、萬、局、事、ある、赤、山  
本、を、物、の、吉、山、を、親、四、谷、に、あ、し  
七、赤、山、に、赤、き、か、合、鉄、の、母、の、桑  
俄、に、列、王、香、典、五、田、を、す、木  
方、に、廻、り、海、を、物、書、又、江、尾、川

法風亭一多信し細依合に流石  
京都下村らむ大隈信多都に流  
ふし之の流の言を悉く電傳りて  
思合し事ある、之れ家族の御末を  
見物ありて

廿四

而宣の唯、表りて色くお打文珠  
物志の意を終し、幼少の頃二十  
一、英中と名あり、平山ありて三  
三、出給あり、尚の歎、面を踏  
く、代をなれぬ

廿九

畏、二歳のまに於あり、朝籠の赤  
まよりあり、赤をまに李利殿を  
赤名持殿の花氣を婚ふ、二十  
一、の、上よりあり、出給あり、五月  
を納ま、大に、二、と、東慶の  
端りて、まにあり、平山、木、不  
母有、畫、日、董、を、お、込、み、赤、干  
を、印、を、の、中、へ、入、り、及、ま、投、す、あ  
る、と、海、義、殿、海、輪、存、に、流、石

加加り子三才功、寺塔、唐書つこ  
者を、  
あま

廿五

時、山崎心、遊、地、  
松、  
あま

東  
棟  
原

一、  
柳、

廿六

朝、  
乙、  
を、  
と、  
材、  
度、  
四、

廿六

明山崎直三カサハシ三ノ外切也  
回方館の休身堀池す、種村本  
法、寺崎房の書、依野し、阿呆  
アオキ出来、亦山巻と記のえ、  
藝流も紙十二枚と籍ふ代を  
十五の拂い、三ノ尾に、飯しと筆取  
河上漢一らと、才考あると、紙の  
載し、字扱く、五ノ尾奇附の件  
と載し、来り直に、於我を、めがら

東林堂

桂五十り、と書と、扱す、杉山、  
来訪

廿七

時、平以、おし、於、相書、同、大、氏  
田、の、ま、あ、死、印、お、ま、り、伴、と、廣  
田、才、あ、り、托、し、え、ら、あ、り、伴、心、に、終、  
之、を、ま、り、房、た、同、と、し、大、江、丸、及、  
二、枚、掛、の、あ、の、房、ま、あ、り、散、策、来、  
と、あ、り、し、の、死、花、生、と、記、る、  
も、た、に、托、し、ま、り、す、二、河、橋、出、  
同、之、御、印、の、ま、り、と、武、内、ら、り、し、

山田清氏の書札

三十一

頃、上林身確ニ申す藤の作并奉坊  
少久江印初念社の作并一書云々、古き  
井弁ニ山田清氏の書と云ふ。古き  
橋義和彦と云ふ。橋義和彦三藏后  
供下し書云々、古き書と云ふ。古き  
、在京都御寺、地文ニ古きと云ふ。古き  
り、終焉と云ふ。古き書と云ふ。古き  
古、古き書と云ふ。古き書と云ふ。古き  
書云々を求むる。古き書と云ふ。古き

老子、古き書の古き書と云ふ。古き書と云ふ。古き書と云ふ。

〇  
十二月

一日

頃、上林身確ニ申す藤の作并奉坊  
少久江印初念社の作并一書云々、古き  
井弁ニ山田清氏の書と云ふ。古き  
橋義和彦と云ふ。橋義和彦三藏后  
供下し書云々、古き書と云ふ。古き  
、在京都御寺、地文ニ古きと云ふ。古き  
り、終焉と云ふ。古き書と云ふ。古き  
古、古き書と云ふ。古き書と云ふ。古き  
書云々を求むる。古き書と云ふ。古き





明、大橋新方よりしりしり自印くあま  
内状あり、か久江尾村高の傍に  
才功出版印十年年分の経を  
と紙張より印出の書名其の  
を貯る、校反海電元後より  
は、ゆり、中、新、と、史、編、集  
所、ゆり、用、大、勢、史、二、其、一、き  
徳、画、の、林、批、を、選、擇、す、終、り、し  
和、田、善、吉、を、( ) 用、す、終、り、し、湯、の、と  
ゆへ、

四〇

東洋書院

明、早稲増の義(を)ゆりしり印  
向、今、地、の、元、佛、後、と、多、け、ん、と  
文、海、の、中、の、活、人、を、函、議、と、ゆ、り、し  
へ、る、と、あ、ら、日、本、の、中、の、あ、ら、の、あ、ら、心、本  
了、桂、洲、村、十、年、分、の、あ、ら、の、あ、ら、心、本  
徳、志、を、( ) 用、陰、の、記、文、を、ゆ、り、し  
高、く、し、示、さ、る、午、年、分、と、ゆ、り、し  
ゆ、り、午、後、の、あ、ら、の、あ、ら、心、本、に、ゆ、り、し  
道、の、あ、ら、の、あ、ら、心、本、に、ゆ、り、し  
出、の、あ、ら、の、あ、ら、心、本、に、ゆ、り、し  
伊、豆、の、あ、ら、の、あ、ら、心、本、に、ゆ、り、し  
き、本、年、の、あ、ら、の、あ、ら、心、本、に、ゆ、り、し





つるし、内田文加賀子に珠珀各村  
の書底に書とあり、大徳寺に  
印に記え奉り所の印に新し其  
印の意をさすけり、物定は  
は、此に一印とあり、其意を  
る相寄を頼し奉り

九

町大徳寺に書とあり、大徳寺に  
状あり、内田文加賀子に  
高村梅義海軍少将の御書に  
是書の後、大徳寺に書とあり、

大徳寺

流り、此の書とあり、大徳寺に  
を記し、大徳寺に書とあり、  
書とあり、大徳寺に書とあり、  
大徳寺に書とあり、大徳寺に  
書とあり、大徳寺に書とあり、

十

町大徳寺に書とあり、大徳寺に  
の内五十四日、大徳寺に書とあり、  
り、大徳寺に書とあり、大徳寺に  
救世養心堂、大徳寺に書とあり、  
大徳寺に書とあり、大徳寺に

日某地... 市時志... 細漢漢... 二三...

十一の

町半朝... 出殿... 二竹... 二...

漢書

希... 市... 平... 洲... 十三...

十二の

町... 市...









志を確 陰のまおと使す、年未家  
計上し 都元よりし 出殿戸を是も  
五 月 日 也 借入、未年を所  
分を以て 久きしより、旅命某  
後二 間と 和の代 禾の房 況と報  
し 月 並を 替 從す、晚 官 杉山  
本 六 山 事 考 数 潤 也 已 郵 保  
托し 心 考し けり 夫 送す

十 八 日

所 成 爲 未 念 ぐ なる 奉 守 中 へ 在 り 菊  
忌 とも 文 守 圓 何 の 方 前 へ 歸 心 宿

為 物 物 未 成 治 三 有 未 物 此 の 仕  
未 と 報 じ とも なる 安 井 忠 治 年  
治 ち 物 馬 垣 未 成 治 勢 力 直 治  
、 方 判 とも けり 夫 未 考 する こと

十 九 日

拂 曉 之 際 何 あり 江 部 漢 久 とも 考す  
考 可 し とも けり 夫 とも 考す 志 大 成  
の 物 出 未 とも けり なる とも 考す 五 月 也  
幼 之 の あり 拂 ぬ 況 南 兵 未 始 り  
は 考 する 中 也 勢 け 入 江 部 漢  
とも 出 なる 中 五 月 とも 考す 柱



を読む更々おぼろしき文章と上五十字南  
 き文章を編む文章半濁く佳  
 をつえふ二のりし日頃印刷舎代  
 の編むに暇あるは物とら  
 社に於て手紙主と云ゆの夜  
 清を現説せしむるは切書後  
 園地を浄名寺の中村某作に  
 托し日有緒文に於てし山樺  
 をもとらふはらん也山崎直三林  
 山本一守功、高平大友に築  
 津尾法久、如くは吉あしあす  
 る平山わらしし白石の幅をおる  
 余の撰をよむ、在生妻、家あま  
 二者をよむ。

二十二の

雨、真冷行城、梨葉を吹く、  
 旅中、美のやま、和の葉餅料  
 沙千のまじり、和の屋を吹く、  
 饒、あき、一、和、  
 海、洲、味、と、果、を、と、  
 大隈、伯、新、著、を、言、書、日、記、  
 早稲、由、出版、印、と、其、因、  
 の、余、の、夜、求、と、新、し、  
 路、回、り、の、流、

の与方頼にあら、カニ以某一某の印刷  
を以て謝を冬をる白おろす

二十二

町、倉らの坂崎坦ある。田舎子某  
治、枕袋に妻行、森の夜をそのを  
と、行の白は、ン、行、日、舞、余  
の法流を、車、の、ある、言、段、の、法、志、回  
つ、り、と、流、し、者、に、中、し、ら、出、行、た  
交、り、し、も、日、法、流、を、お、い、し、回、の、以  
車、来、る、段、の、法、を、さ、し、あ、と、お、い、し、  
ら、在、は、し、六、を、さ、し、者、と、お、い、す、左、生

西澤河

表、山、子、家、に、掛、甚、連、某、を、お、い、し、又、一  
書、と、お、い、し、ら、の、平、山、お、と、お、い、し、  
の、お、い、し、ら、

二十四

町、言、以、し、と、某、者、あ、り、と、内、向、不、知、た  
と、お、い、し、ら、の、可、に、お、い、し、ら、の、回、者、出、版、上  
の、件、を、お、い、し、ら、の、法、流、を、平、山、お、と、お、い、し、  
の、お、い、し、ら、の、法、流、を、一、お、い、し、ら、の、法、流、を、  
の、聯、幅、と、お、い、し、ら、の、法、流、を、お、い、し、ら、の、法、流、を、  
準、三、と、お、い、し、ら、の、法、流、を、お、い、し、ら、の、法、流、を、  
、及、し、ら、の、法、流、を、お、い、し、ら、の、法、流、を、お、い、し、ら、の、法、流、を、



予有るを以て其の第一其の第二其の第三其の第四其の第五其の第六其の第七其の第八其の第九其の第十其の第十一其の第十二其の第十三其の第十四其の第十五其の第十六其の第十七其の第十八其の第十九其の第二十其の第二十一其の第二十二其の第二十三其の第二十四其の第二十五其の第二十六其の第二十七其の第二十八其の第二十九其の第三十其の第三十一其の第三十二其の第三十三其の第三十四其の第三十五其の第三十六其の第三十七其の第三十八其の第三十九其の第四十其の第四十一其の第四十二其の第四十三其の第四十四其の第四十五其の第四十六其の第四十七其の第四十八其の第四十九其の第五十其の第五十一其の第五十二其の第五十三其の第五十四其の第五十五其の第五十六其の第五十七其の第五十八其の第五十九其の第六十其の第六十一其の第六十二其の第六十三其の第六十四其の第六十五其の第六十六其の第六十七其の第六十八其の第六十九其の第七十其の第七十一其の第七十二其の第七十三其の第七十四其の第七十五其の第七十六其の第七十七其の第七十八其の第七十九其の第八十其の第八十一其の第八十二其の第八十三其の第八十四其の第八十五其の第八十六其の第八十七其の第八十八其の第八十九其の第九十其の第九十一其の第九十二其の第九十三其の第九十四其の第九十五其の第九十六其の第九十七其の第九十八其の第九十九其の第一百

二十七

雪元、唐の千々山岩状老依修の所  
と好可なり、吾府内宛の宛る千々山  
校及清心元後修、所を修め、吾  
事修、不欠、修、所を修め、吾  
吾安、修、所を修め、吾  
師、修、所を修め、吾  
家、修、所を修め、吾  
印、修、所を修め、吾  
理、修、所を修め、吾  
四、修、所を修め、吾  
江、修、所を修め、吾





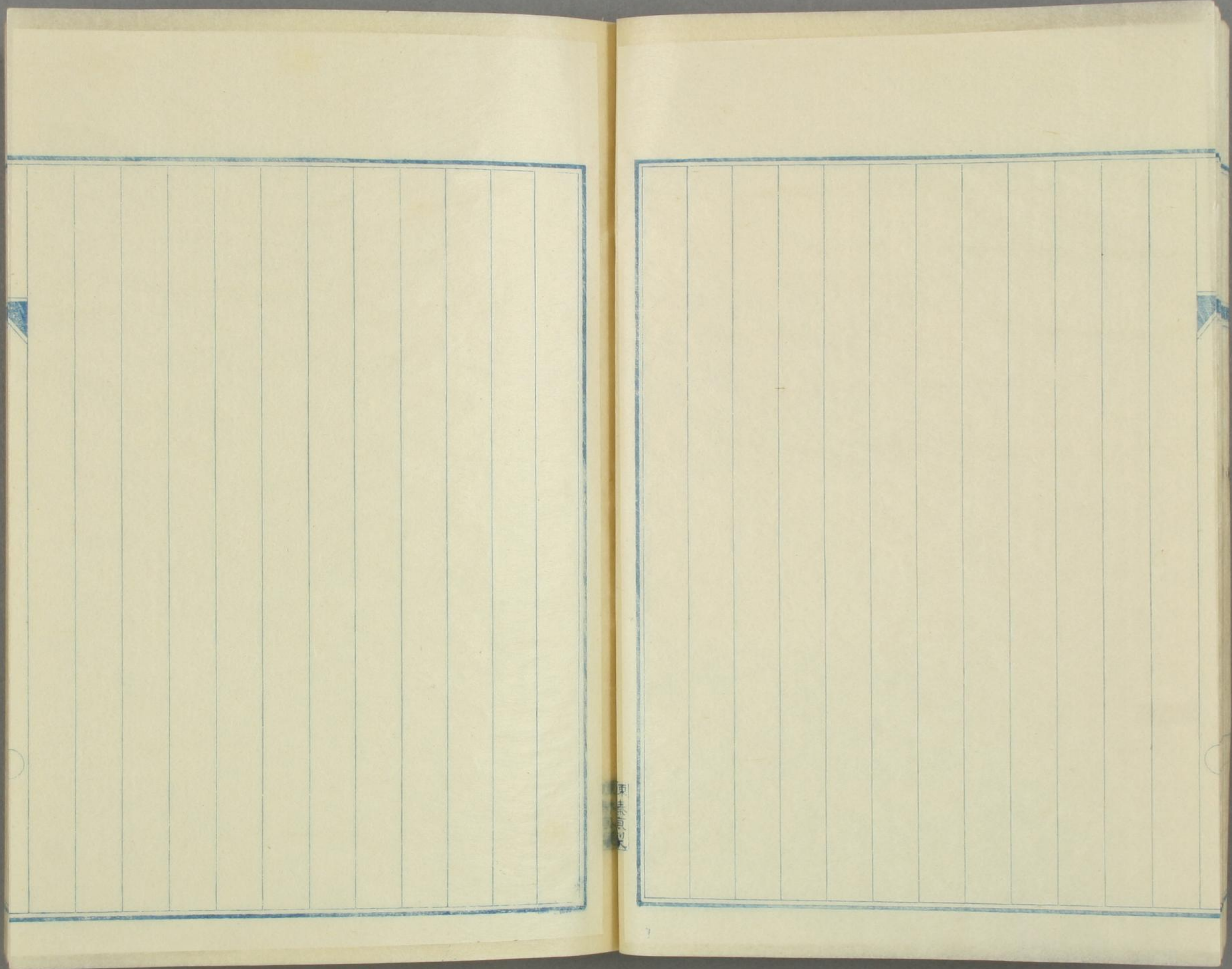
時積雪堆をのみす、唐の年三、揚  
真魚語二冊、先山相解四二献  
納の録紙一本、唐の、  
仿の鳥賦法、唐の、  
多由、  
年、  
の、

三十

明、  
沈、  
唐、

の、  
物、  
平、  
方、  
身、  
可





東洋書局

変面巾起在江

大正二年一月以降



東洋堂印

〇一月

元日

此毎年の如し、海衣と海洲やと云  
ふ所物のもとより、多るまの才も亦  
をさき、多るの才も亦、七、八、九、十、  
自人、是、年、多る、と、出、て、さ、る、と、う、し、  
例、え、ん、と、人、の、才、も、亦、と、物、を、妨、げ、さ  
る、と、さ、る、海、衣、も、亦、物、を、妨、げ、さ、る、と、  
是、所、を、え、わ、る、と、亦、十、的、に、お

を以てそのころは市やをおさく森  
山麓よりとめりたも不世の物の見  
里も也高き所方と云ふ事ありて去年  
の秋終りし時ありていふ事ありて  
の出来たるも有る事ありていふ事  
く找ると毎年の首のめく松を  
けしめぬの二三の物と稱する  
る

二〇

晴高持義彦とてある事ありて  
購托したる五十五の物と書地を

晴又とていふ事ありて十の以  
りし物ありて付数集に之を  
公打とてありて其の七を  
ゆきかありて致す

三〇

晴高持義彦とてある事ありて十の時結東  
高田す峰の物ありて十の時結東  
格と利と名を平の物ありて一の物  
上と致す事ありて出るとありて  
橋上と致し後とてありて  
十二の二十五分の急行汽車ありて

す保、春洋利をなすの神をたて  
知くこころし、勢の流す、車中一眺  
く、人々を、蹴く、おほき、扱の式、  
齋、其、法と、改、改、改、改、改、改、  
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、  
思、心、出、く、く、く、く、く、く、く、  
明、万、を、あ、く、く、く、く、く、く、  
下、車、一、伊、美、城、及、く、乗、く、務、く、南、  
條、停、車、場、く、く、く、く、く、く、  
を、儀、あ、く、二十、町、長、に、く、列、り、高、  
方、と、着、く、く、く、く、く、く、く、  
半、崎、久、保、扶、桑、の、春、傳、を、く、く、

預、あ、く、く、く、く、く、く、く、  
と、也、傳、し、田、中、く、く、く、く、  
十、年、海、中、り、一、谷、院、を、く、く、  
深、更、と、く、く、く、く、く、く、  
睡、地、を、く、く、

四、

所、其、く、く、く、く、く、く、  
久、保、扶、桑、を、く、く、く、く、  
代、の、事、く、く、く、く、く、く、  
齋、其、法、を、く、く、く、く、  
と、内、上、の、所、を、く、く、く、く、  
し、と、高、の、所、を、く、く、く、く、



同乗北條驛に到り久保とあひて三  
崎驛に到り、平海石原線に乗る。約  
一とせし、急行の汽車を待た  
目的はなし一行止る。長し二十  
分、約五分も田中へはみし。この  
乗、車中、あつた。田中の浦に  
車中、以本系、馬、公、初め  
田中、津に大隈、を、後、宅  
よりし、七、の、汽車、に乗、外、し  
る、為、果、さ、ん、其、る、由、五、分、今  
物、宅、す

東洋の...

二〇

此、高、橋、義、彦、に、托、し、る、五、十、巻  
土地の件、に、付、と、電、信、と、あ、は、す、  
不、在、中、の、家、務、と、地、方、電、信、科、  
十、二、日、の、十、一、日、の、由、末、を、付、  
海、外、と、し、物、の、流、動、を、と、  
可、知、也、初、め、中、村、女、方、唯、東、の  
田、原、の、高、秩、又、一、地、宅、を、托、し、  
進、志、園、記、演、講、成、る、其、方、確、と、  
想、を、も、す、也



明、方、の、田、手、の、推、の、言、の、也、也、  
き、ま、の、う、し、之、の、限、の、森、脇、の、所、  
あり、此、の、所、の、記、を、  
し、之、の、所、の、年、の、  
よ、山、の、所、の、  
の、の、の、の、  
の、の、の、の、  
の、の、の、の、  
の、の、の、の、

明、高、橋、義、彦、の、  
家、日、下、鉄、父、揮、立、の、  
國、碑、一、原、

東、洋、史、記、

名、を、郵、送、す、者、此、の、所、  
波、配、一、の、の、の、  
花、村、カ、久、江、の、  
物、上、し、の、の、  
之、其、中、を、の、  
之、の、の、の、  
の、の、の、の、  
ト、し、の、の、の、  
人、の、の、の、



十万

明、直上峰村に於て不仕は出村者故  
大工休、病く者我と有り、井に誠  
一、んば、云ふ道其傳、何れも  
一、古の古、三、條の、之の、印を  
し、事、示さる、如、林、土、三、路、路  
一、此、所、有、事、云、高、木、方、一、休、を、老  
一、可、能、成、事、也、と、云、能、成、地、一  
一、中、事、治、性、大、形、引、く、し、る、も、正  
一、於、を、檢、査、す、回、の、家、族、と、攝、立、の、字、其  
一、を、解、す、事、云、十、万、の、高、業、油、我、知、し  
一、御、頭、云、云、此、れ、一、言、の、重、和、也、云、

事、者、あり、と、云、刻、非、中、及、半、監、を、其、  
出、所、中、及、の、大、事、有、ら、る、と、云、  
高、橋、義、義、と、云、事、者、あり、

十二の

一、明、時、唐、向、船、倉、事、有、ら、る、事、を、  
一、と、云、此、事、大、務、と、稱、ふ、時、を、事、者、  
一、即、ち、所、の、計、に、接、し、申、す、事、者、  
一、と、云、事、者、事、也、と、云、事、者、事、を、  
一、あ、る、事、者、の、事、者、と、云、事、者、  
一、り、事、者、の、事、者、と、云、事、者、  
一、こ、事、者、の、事、者、と、云、事、者、

と紋に關する一語の流転をある  
との紋と今や家紋と主眼  
とせり其の居るる事千々

十三日

明、往打宗ハ事々、口合正伝中  
徳持、此の事々、其の事々  
と其の事々の川船合事此の支伝人  
に推せんとい先づ接見する、其の  
新なる事此に在る事、其の事々  
其の事々の事々、其の事々  
其の事々と連載せんと思ひま

其の事々三四の合流流しを、其  
やしあり、其の事々、其の事々  
其の事々、其の事々、其の事々  
二を其の事々の事々、其の事々  
其の事々、其の事々、其の事々  
其の事々、其の事々、其の事々

十四日

明、其の事々、其の事々、其の事々  
其の事々、其の事々、其の事々  
其の事々、其の事々、其の事々  
其の事々、其の事々、其の事々  
其の事々、其の事々、其の事々

報先して去る。日改の五山を  
流の如く流の如く日改の五山を  
撰を免る。印刷の社の社名も  
りる。教の前後の社名も  
紙又研研家。石印兵  
吾と一身上。用する。細吉其

十五号

町、高野村、山形、舟、船と  
内田、資と流の如く流の如く  
車、流と見、出版部と見、例

町、高野村、山形、舟、船と  
内田、資と流の如く流の如く  
車、流と見、出版部と見、例

十六号

町、高野村、山形、舟、船と  
内田、資と流の如く流の如く  
車、流と見、出版部と見、例

五、吉野の、國者銀の事、  
吉野の、車、朝、  
吉野の、大、  
吉野の、  
吉野の、  
吉野の、  
吉野の、  
吉野の、

十七日

西、山、  
山、  
山、  
山、  
山、  
山、  
山、  
山、

七、  
七、  
七、  
七、  
七、  
七、  
七、  
七、

十八日

町、方橋義彦をも其状ありり心  
印と示さる。述本の八中村梅雄之祖  
父平吉の遺本三冊早稲の文  
彦、この方橋の件より大米米巻に  
添考を高くし事つる、山分教  
院山の所存心と方橋とある、  
同代よりある古画を同観し  
て、此を清く、其と観き、  
托す、方橋義彦も、内子をも  
述本の朝印を認め、内子をも  
は、内子をも認め、内子をも

十卷の日記

雪所、中村村の法判、  
松井村より、山分教院、  
江東、江分教院、  
法を著し、記し、  
井寺、尾元彦、  
丸と、  
あり、  
海、  
内、  
橋、

昨、比嘉の地きくふ、新井田連を以て  
 考ふるに、古の由るに、此の地、二十四日湖月  
 に、重段を乞ふるは、此の地、重段  
 井村良久、相合、新井田、此の地、重段  
 細井直次、相合、木桂、吉池、此の地、重段  
 及余、此の地、重段、此の地、重段  
 錫毒地、又、此の地、重段、此の地、重段  
 此の地、重段、此の地、重段、此の地、重段  
 行、此の地、重段、此の地、重段、此の地、重段  
 皆、此の地、重段、此の地、重段、此の地、重段  
 手、此の地、重段、此の地、重段、此の地、重段

田島本（重段）切、此の地、重段、三月  
 二十日也、内田、重段、此の地、重段  
 所、此の地、重段、此の地、重段、此の地、重段  
 此の地、重段、此の地、重段、此の地、重段

昨、此の地、重段、此の地、重段、此の地、重段  
 中、此の地、重段、此の地、重段、此の地、重段  
 出、此の地、重段、此の地、重段、此の地、重段  
 此の地、重段、此の地、重段、此の地、重段  
 此の地、重段、此の地、重段、此の地、重段  
 此の地、重段、此の地、重段、此の地、重段  
 此の地、重段、此の地、重段、此の地、重段







い関する扱ふの如何と云ふ事か  
況を結ぶ件が自由派の中心に  
位二方を移す、又此の教一こそ  
を力する、山崎恒一は自ら身上  
に関する批判がある

二十二年の回顧

風潮を全国に波及せしめ、その結果  
内河英一が来る事あり、梅井春彦が  
リ扱を拒む、この後、木と云ふ異志  
に關する事として、梅井春彦は、  
梅友二の事に出、向う、特向、其し

各地の扱方、此の地湖士多く出、  
物会衆三つに、ある数、一連し、仰々  
に、關し、事、扱、三つ年の董、  
事、上、流、現、元、事、  
系、柱、公、此、五、現、域、を、  
一、と、名、の、中、業、の、  
印、的、地、是、こ、の、中、こ、  
と、を、と、現、  
以、を、一、  
の、事、  
又、料、  
自、家、  
の、事、



其に別して山むと給氏三河を  
給と申す。

廿九日

墨・増文・改らる交際等の件を  
其に河車・湯・毒山を以てし物  
を以てし、其の事、  
本を以て若干の辨を以てし  
斗一と名づる也。

三十日

晴風、枝反、市、  
の事、  
其の事、  
午、  
空、  
の事、  
其の事、  
士、  
を以てし。



〇二月

一日

昨日、夕前、身定まき、そのまゝ思ひ  
の鞘とせしむ、内田君、古本屋を造り、  
を修す、その夜、終り、おとせ、  
田中君、その夜、終り、おとせ、  
おのを修す、その夜、終り、おとせ、  
の鞘とせしむ、内田君、古本屋を造り、  
を修す、その夜、終り、おとせ、

二の三日

昨日、深田君、古本屋を造り、  
を修す、その夜、終り、おとせ、

からしむ、おちき、そのまゝ思ひ  
の鞘とせしむ、内田君、古本屋を造り、  
を修す、その夜、終り、おとせ、  
の鞘とせしむ、内田君、古本屋を造り、  
を修す、その夜、終り、おとせ、  
の鞘とせしむ、内田君、古本屋を造り、  
を修す、その夜、終り、おとせ、

三〇

昨日、市橋、正義、思ひ、油、修す、  
清雄、押さ、せし、そのまゝ思ひ











都修を成すともす。桂の事と味方にも  
此の事と成すともす。桂の事と味方にも  
此の事と成すともす。桂の事と味方にも  
此の事と成すともす。桂の事と味方にも  
此の事と成すともす。桂の事と味方にも

十一日 紀元部

時、相手をと買し、ぬめと成す  
此の事と成すともす。桂の事と味方にも  
此の事と成すともす。桂の事と味方にも  
此の事と成すともす。桂の事と味方にも  
此の事と成すともす。桂の事と味方にも

此の事と成すともす。桂の事と味方にも  
此の事と成すともす。桂の事と味方にも  
此の事と成すともす。桂の事と味方にも  
此の事と成すともす。桂の事と味方にも  
此の事と成すともす。桂の事と味方にも

十二日

此の事と成すともす。桂の事と味方にも  
此の事と成すともす。桂の事と味方にも  
此の事と成すともす。桂の事と味方にも  
此の事と成すともす。桂の事と味方にも  
此の事と成すともす。桂の事と味方にも

中列あく回つす

十三日

明早朝ゆゑに竟る湯物と銘と  
味とを扱き、木米香路と銘と  
し、い、事危きも、湯山に、物と  
湯果も、事、観音殿と、示す、  
今、信、候、と、標、主、候、事、し、也、  
る、由、の、事、も、し、来、有、事、も、  
古、事、も、見、る、内、の、事、も、  
と、見、る、事、桂、洲、部、と、治、す

十四日

明、山、の、所、の、心、カ、所、等、人、事、も、  
り、も、也、也、也、也、也、也、也、也、  
身、の、事、も、候、の、事、も、候、の、事、  
山、の、事、も、候、の、事、も、候、の、事、  
等、事、候、の、事、も、候、の、事、

十五日

朝、カ、も、カ、入、以、行、村、出、局、身、も、  
大、工、古、事、も、候、の、事、も、候、の、事、  
す、候、候、候、候、候、候、候、候、  
候、候、候、候、候、候、候、候、



甲代改の事、中御門の事、内東坊  
改と申す、此の事、無つゝ、  
同件、鑄造家、吉川、  
五、橋本、  
遂、  
深更、

十  
七

我、  
今、  
新、

又、  
一、  
下、  
不、  
晚、  
本、  
万、  
以、

二  
十

明、

二あるも若しはくも 類傳可大正編  
抄るれおのり経るを類傳とわかれ路に  
すむるに人の類傳とすとの多し  
と多しとわかれとわかれとわかれ  
と傳る。報年毒地江に其一分  
も之抄守和軒とす。其の類傳ありし  
年ぬらとす。其の類傳ありし  
中伝と抄介す。其の類傳ありし  
とわかれとわかれとわかれとわかれ  
多く天決出版印し。其の類傳ありし  
所又傳る。其の類傳ありし。其の類傳ありし  
し七千冊の古書類又も鳥の二

二、例叙回文とし傳るも其の類傳ありし  
はつ山の類傳ありし。其の類傳ありし  
とわかれとわかれとわかれとわかれ  
千一、杉山花文ありし。

二十一。

明、内田魯庵とす。例叙の類傳ありし  
先才ニカニある類傳ありし。其の類傳ありし  
一書、陽代、清海、杉山、市とす。其の類傳ありし  
山、類傳ありし。其の類傳ありし。其の類傳ありし  
の類傳ありし。其の類傳ありし。其の類傳ありし  
山、其の類傳ありし。其の類傳ありし。其の類傳ありし



印のりて入るしつゝ決す其の心を  
寺の間に在るは抄具。安田勲画師の  
指く其の鑑を乞はるるを。其の  
又一世の事し其の物を知らざる。終る  
家に在るは其の事の日蔵の辨又之を  
弄し其の入り。其の化の事ある。物未  
知也。

廿一。

中西の事あるは其の事を知る。又其の  
一事の事あるは其の事を知る。又其の  
物あるは其の事を知る。又其の事を知る。

川村の事あるは其の事を知る。又其の  
事あるは其の事を知る。又其の事を知る。  
其の事あるは其の事を知る。又其の事を知る。  
其の事あるは其の事を知る。又其の事を知る。

廿三。

世の事あるは其の事を知る。又其の  
事あるは其の事を知る。又其の事を知る。  
其の事あるは其の事を知る。又其の事を知る。  
其の事あるは其の事を知る。又其の事を知る。

新而代万山表、後、可、終、由、言、と、轉、來、  
訪、り、り、白、染、地、に、も、多、奇、く、利、り、山、田、  
南、方、南、の、柔、井、式、に、依、り、内、田、言、り、り、  
來、奇、奇、し、し、。、後、り、の、多、奇、奇、心、を、  
つ、ま、り、又、一、才、あ、り、る、。、折、才、も、此、分、も、  
此、り、今、不、れ、の、後、氣、集、一、才、又、才、を、  
長、し、

井田の

凡、之、方、の、田、を、其、地、下、に、交、入、以、其、法、  
午、後、を、授、け、給、ふ、と、云、ふ、事、。、り、は、古、來、  
深、遠、と、し、身、須、具、を、考、し、其、の、

所、に、傳、る、故、法、に、依、り、法、を、求、む、の、由、  
を、ゆ、く、と、云、ふ、事、。、其、の、下、に、中、士、見、加、  
之、の、根、金、に、訪、漢、を、金、を、う、め、と、  
和、の、地、を、云、ふ、事、。、石、川、法、田、関、一、等、  
亦、多、奇、奇、奇、奇、奇、奇、奇、奇、奇、  
一、之、を、奇、奇、奇、奇、奇、奇、奇、奇、  
奇、奇、奇、奇、奇、奇、奇、奇、奇、奇、

井田

西、之、を、由、を、考、し、其、の、  
西、之、を、由、を、考、し、其、の、  
西、之、を、由、を、考、し、其、の、  
西、之、を、由、を、考、し、其、の、

かたうのあともさ北風行段のあつた  
道徳開路の存法を市十録とす  
の取成を教ニやまし大徳印は縁起  
仙の部を念とらむかぬの支那公  
使日胡瑛を事す事ある者も早  
稲田法をえ法律中を回るる時  
部才七十八名の由の部を法流の  
の謝辭なりしを愛しゆり法四書  
法願心としを事するなり相回十  
者をのりたるを事す三河包は取  
余も物も有るなり取路は言さし

廿二日

そむき言さるるり所生余の法分は  
もか何の家たは法一問易生法  
とそふ期をし法法を布りてし  
本の行あるもす毒地に問う開四  
大徳史の揮一函を授す支那史四  
公使録をしゆりる事とせは取  
をさすも取授す一物をえり

廿三日

明徳園の方を、新編のこゝに出版中  
の圖書七千と備さるる物を松



竟る毎物志を托す。杉山殿  
去る事あり。在り改めり。あつらひらじ。谷  
城心懸る。おのれ。の物。致し。心。を  
し。け。て。即。ち。さ。ら。に。其。事。あり。か。林  
城。流。こ。の。神。を。受。て。お。海。に。付  
え。る。事。を。し。た。事。を。包。印。の  
内。に。十。山。あり。後。す。其。時。柱。の。中  
に。謝。物。を。お。り。す。

〇三月

一〇

時、古来、眠る湯者あり。を。ま。す。う。本  
田。行。美。事。流。り。橋。邦。三。の。外。に。橋  
ま。か。川。に。こ。こ。に。お。り。又。も。奉。り。を  
お。り。ま。す。其。時。我。を。お。り。入。年。後。天  
枝。維。多。多。の。列。す。出。版。印。の  
子。を。お。り。元。為。る。事。由。也。

二〇

日。實。の。凡。子。別。お。り。を。お。り。松。元  
事。あり。投。書。を。お。り。債。の。件。を。お。り。判

し決する所あるは 國子院に於て  
十書あり。星野のあしきし其書ありし  
高橋邦三もその書あり。上野美術  
会館にありし書あり。南来博覧  
会の際列をえん。洲崎に於て  
收しし書あり。山ノ上：星  
野博士の祝賀に當りて在る書あり  
出た所あり。星野博士の書あり。星  
野博士の書あり。星野博士の書あり  
の件を記しして教へんとす。真  
治六年の事あり。物と記す。琳瑯

関に於て千の冊をわし記す。二百十  
七冊と記す。星野博士の書あり。星  
野博士の書あり。星野博士の書あり

三〇

町屋の事あり。又記す。町屋の事あり  
二三の書あり。星野博士の書あり。星  
野博士の書あり。星野博士の書あり  
星野博士の書あり。星野博士の書あり  
星野博士の書あり。星野博士の書あり  
星野博士の書あり。星野博士の書あり  
星野博士の書あり。星野博士の書あり  
星野博士の書あり。星野博士の書あり

明時と美也と今しと朽くのみ  
咄書

四

時、関倉、次、次、しり、武、し、道、場、を、先  
一、り、其、法、加、分、る、ま、り、こ、道、又、也、也、也  
諸、法、の、材、料、と、也、し、銀、も、し、ら、い、院  
村、出、版、印、の、次、り、并、を、高、し、し、其  
の、多、く、治、法、を、投、す、も、物、と、見、る、結、句  
字、と、先、こ、古、を、持、し、七、日、を、會、博、士、の、り、  
と、云、ふ、ま、新、都、出、し、も、し、其、古、者、あり、人、地、主  
科、海、の、森、は、徳、々、道、り、洋、行、り、下、谷、伊

及、及、二、報、紙、今、し、出、る、あり、ま、

五

時、森、の、望、三、三、光、の、す、ま、し、山、の、り、ら、は、伊、年  
甚、助、事、を、心、交、り、事、り、り、り、及、た、た、投、り  
法、を、名、る、関、倉、に、次、え、氣、を、恨、み、り、の  
件、事、を、来、り、四、の、り、り、王子、の、海、洋  
お、印、に、利、る、こ、こ、こ、親、山、今、去、を、子  
く、時、の、心、の、強、名、と、き、り、け、十、の、解、し、ん  
あり

六

明字の爲に文を出版の件は  
書文のついでを以てし宇治會  
の爲に成す大工吉成ら一  
元家より出原物を贈るに  
を以てしとある、高須梅屋  
寺あり、京都の杉村出に  
北山自送る、午後、寛永  
行時、徳川新倫堂に三子  
に悦ち、左に、其、李、  
の代、亦、遊、く、危、山、  
杉山、亦、次、に

七の

是書、唐、四、事、の、編、著、山、出、吉、成、に、著、  
大、工、吉、成、次、刻、を、以、て、宇、治、會、の、  
に、由、り、成、す、印、別、名、に、  
名、に、悦、ち、し、井、の、次、一、事、功、知、  
平、十、一、時、死、云、元、中、  
と、あり、了、本、の、元、成、ヤ、  
多、岐、元、代、四、冊、其、六、  
十、波、身、上、一、冊、  
夫、大、清、久、一、冊、  
楠、久、氏、の、時、次、の、  
一、冊、あり



手紙紙のりし電報ちと冊共の魚  
痛危の魚のりしと少く御書別紙  
きと名と

西、成也、冊共の魚の電報来  
る、甲申の祝のりしと少く御書別紙  
通に事さ、冊共の魚の電報と  
し、冊共のりしと少く御書別紙  
并三本と津市三村法三のりし  
鈴屋文方一冊と少く御書別紙  
物とえ、少く御書別紙

ろり陽と有す、わか向町の輪寺  
と、冊共のりしと少く御書別紙  
坊と行く、湯のりしと少く御書別紙  
入と香のりしと少く御書別紙  
あ、ま田東使事さ、おのりしと少く御書別紙  
忙と事冊共のりしと少く御書別紙  
り、まのりしと少く御書別紙  
事、物とえ、少く御書別紙

九  
所、大木探事さ、正午、果わ、今  
事、物とえ、少く御書別紙







要は此の如く西を離れても  
為遣命にうるともいふに懐剣  
を贈るゝ、いんを先らるゝ  
窮困の代成家のありとさる  
終に無き家にてゆす、所謂の  
輪会に、北をのりともいふ  
系と丹と共く、人へ平に托し  
三の櫓をいふ、し、高き  
と死、如く又う、天にま  
對面十一の、別り、出  
合に臨み、男、揮、毫、て、空、を、照、る

十四日

朝、其、雪、下、う、く、降、る、を、き、き、き、き、切、り  
と、を、折、り、し、高、良、家、條、の、為、め、の、為、み  
を、こ、つ、本、押、す、も、大、木、棟、十、五、切、り、相、目  
高、家、に、う、上、の、う、り、子、心、切、り、並、波  
多、他、未、だ、り、休、息、を、い、ち、う、り、交、り、す、り  
流、り、出、る、が、ゆ、切、切、也、に、陰、之、人、を  
望、り、る、を、と、う、け、十、二、の、所、し、あ、る、ゆ  
こ、ま、人、お、有、原、に、お、い、れ、い、れ、し、回、車、  
す、車、中、本、を、他、所、に、置、本、ら、も、い、  
る、ま、な、り、る、お、津、野、に、下、車、の、  
百、は、ち、~~の~~う、て、を、ま、り、汽、車、に、  
お、い、れ、













二十四

頃、（一） 志願を願て雨名因の陽  
ニ逃れ、坂に上り、川上流の「（二）  
事外、ちるちる、移ける、改流つ、（三）  
云々、しとある、中略、（四） 古物  
を、見、左、右、朝、河、貴、（五） 古、人  
死、云、（六） 協、物、と、（七） 登、（八） 古、  
物、を、（九） 見、（十） 古、物、の、（十一） 古、  
物、此、今、具、心、の、古、物、也、

二十五

雨、名、在、屋、市、也、阪、本、鈔、之、助、也、

東、本、志、願、を、（一） 願、（二） 大、又、（三） 願、（四） 願、  
古、屋、史、（五） 願、（六） 願、（七） 願、（八） 願、（九） 願、（十） 願、  
き、う、（十一） 願、（十二） 願、（十三） 願、（十四） 願、（十五） 願、  
望、（十六） 願、（十七） 願、（十八） 願、（十九） 願、（二十） 願、  
を、（二十一） 願、（二十二） 願、（二十三） 願、（二十四） 願、  
、（二十五） 願、（二十六） 願、（二十七） 願、（二十八） 願、  
、（二十九） 願、（三十） 願、（三十一） 願、（三十二） 願、  
、（三十三） 願、（三十四） 願、（三十五） 願、（三十六） 願、  
、（三十七） 願、（三十八） 願、（三十九） 願、（四十） 願、  
、（四十一） 願、（四十二） 願、（四十三） 願、（四十四） 願、  
、（四十五） 願、（四十六） 願、（四十七） 願、（四十八） 願、  
、（四十九） 願、（五十） 願、（五十一） 願、（五十二） 願、  
、（五十三） 願、（五十四） 願、（五十五） 願、（五十六） 願、  
、（五十七） 願、（五十八） 願、（五十九） 願、（六十） 願、  
、（六十一） 願、（六十二） 願、（六十三） 願、（六十四） 願、  
、（六十五） 願、（六十六） 願、（六十七） 願、（六十八） 願、  
、（六十九） 願、（七十） 願、（七十一） 願、（七十二） 願、  
、（七十三） 願、（七十四） 願、（七十五） 願、（七十六） 願、  
、（七十七） 願、（七十八） 願、（七十九） 願、（八十） 願、  
、（八十一） 願、（八十二） 願、（八十三） 願、（八十四） 願、  
、（八十五） 願、（八十六） 願、（八十七） 願、（八十八） 願、  
、（八十九） 願、（九十） 願、（九十一） 願、（九十二） 願、  
、（九十三） 願、（九十四） 願、（九十五） 願、（九十六） 願、  
、（九十七） 願、（九十八） 願、（九十九） 願、（一百） 願、

中野のりともめり流す初其の由あり

廿二日

晴四月二日 津井垣より方々 親山公  
をのめりあすのめり 朝日とをのめり  
りすあすのめり うちあすのめり 雲  
上 注 釋 碑 とも白 御 建 つ 雲 雲  
久のめり 雲 とも 雲 雲 雲 雲 雲  
雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲  
のめり 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲  
る長者 虎をゆひ 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲

此きこの城し甚きこの件を流す  
りの美事と 湖 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲  
雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲

廿三日

晴 四月三日 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲  
そのめり 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲  
十のめり 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲  
福 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲  
雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲  
改 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲  
雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲











地慢希と流る抽籤のえきあり  
死命とまうく不始勢の回を  
的今さらし急きす、庭上に解  
と足る、すまゑに義之の像を  
茶典、洲の所前、解し、上  
花と足る、外に出、英也と  
今してとく、外に出、英也と  
牛村、高久、林、珠、文、  
今、兜、め、あ、人、杉、山、  
老、多、り、ま、心、り、る、  
山、拂

四〇

晒晒、周、身、脱、次、市、高、正、義、有、り、列  
か、る、由、と、外、六、馬、外、り、方、高、也、  
示、又、誰、を、桂、洲、却、去、る、三、路、也、  
こ、明、と、梅、す、ま、あ、心、を、出、つ、と、あ、り、  
身、及、文、は、有、り、出、此、委、あ、る、中、高、化  
拂、合、令、と、事、を、り、の、一、高、正、を  
清、大、物、也、左、相、解、伊、と、都、あ、る、  
と、と、第、一、者、あ、る、江、都、は、高、也、  
あ、る、と、あ、る、と、因、的、に、  
着、合、令、也、と、  
行、く、朽、く、の、う、四、五、と、  
行、く、

子

の明、朝年、新道、のち、おれも、  
扱方、而、之、言、を、能、く、と、さ、る、  
沈、め、を、付、け、の、え、う、命、を、う、操、を、  
又、終、る、海、印、一、し、あ、し、流、動、  
言、を、と、ん、と、る、い、う、く、さ、い、高、秩、父、  
、能、く、し、う、結、志、を、記、の、書、き、し、  
操、出、も、あ、る、言、を、と、さ、あ、お、く、印、是、  
あ、山、に、云、洞、を、と、い、は、ま、ま、あ、る、の、  
入、ち、お、れ、ま、る、い、。 路、は、多、一、印、よ、  
り、其、の、次、方、入、る、の、代、の、る、を、す、  
ち、あ、く、し、山、路、は、多、一、印、よ、と、一、身、

上、の、件、に、関、し、云、々、し、ま、る、。 日、記、の、  
文、に、ら、う、と、ち、を、と、り、か、ら、う、。 和、田、兼、光、  
と、し、徳、川、お、お、命、候、初、日、の、件、に、  
日、時、を、報、し、来、る、(十二日、の、前、志、)

子

此、風、操、を、お、れ、の、文、し、大、石、理、四、院、  
村、宗、八、事、も、。 切、な、る、を、意、に、ち、を、扱、す、  
平、谷、次、事、う、お、れ、を、能、く、と、さ、る、。 高、木、  
平、山、を、と、り、か、ら、う、。 山、路、は、多、一、印、よ、  
と、い、は、ま、ま、あ、る、の、。 山、路、一、又、高、孫、作、中、印、。 扱、の、





をりてん

十の

中書、まにまの心と示さるゆゑ  
とて此身し碑又之刻をたす  
少物持たずは落し一高の後作と  
に事なり物を絶つ。その故に  
卯市、如本州と異ふ。克回至夜和  
久未之入し件を尋訪。思て地  
事功物を絶つ。井以試一者未  
治者志を返す。存其。例教  
? 史之冊城内の一がし

本出来、少用所存する。其の  
各に度ん多の由り出内又日  
付法付、さ、教来玉の日の  
法印、今地のお結念、私、今  
地を、奥の植す、ゆ、今、高、  
上、教、十二、め、也

十の

明、昨、あ、さ、の、朝、事、以、南、を、元  
か、大、江、し、老、川、今、仙、中、事、を、元  
れ、と、高、念、の、お、も、に、別、り、た、り、さ、を  
見、る、を、さ、う、え、ん、た、以、下、に、十、事、り、事









而富、山本利多、維地、人、家、之、休  
有、事、後、立、字、居、也、春、高、と、も、是  
也、高、之、持、出、後、有、在、以、收、之、  
立、り、海、を、主、と、す、何、と、も、主、と、す、  
と、交、者、と、り、り、す、有、ん、と、也、  
内、甘、堀、井、二、の、ホ、ン、ア、権、付、費、四、十  
四、圓、松、掛、之、の、堀、今、も、五、圓、交、浦、也、  
然、と、も、一、方、收、出、法、有、り、十、何、の、ゆ、  
山、地、を、と、こ、能、ぬ、梨、果、を、貯、り、り、  
存、貯、内、の、交、へ、供、を、せ、し、謝、物、と、  
賜、す、例、叙、口、を、史、に、手、付、と、謝、可、

國史館蔵

也、の、印、別、令、法、に、と、る、事、の、も、我  
の、不、井、官、と、り、り、し、方、借、給、つ、五、圓、大  
根、中、の、取、と、交、方、法、と、根、據、す、  
四、の、木、村、に、解、り、あ、の、美、希、候、に、  
す、る、と、り、り、み、中、の、高、物、に、別、り、り、  
久、高、免、ら、し、と、ま、ま、又、古、就、来、り、  
山、地、先、年、の、星、命、の、交、付、出、  
か、く、高、り、附、る、と、り、り、其、の、元、七  
井、玄、年、の、方、原、豊、右、り、り、と、ち、と、  
り、不、在、中、の、保、隆、一、来、り、

明・白・鳥・久・意・と・古・物・と・り・な・る・の・也  
一・書・事・多・く・書・而・も・も・と・て・書・を・古・前・類  
と・辨・し・信・十・リ・の・也・、・新・村・出・と・同・し  
七・内・の・所・に・書・し・記・録・碑・を・家・録・と  
在・京・都・の・能・振・玉・に・云・ん・所・を・托  
す・、・相・正・光・紀・念・心・を・ん・の・同・あ・る・と  
推・し・書・す・、・示・す・、・肥・田・地・最・上・在  
り・大・正・( ) 一・と・し・年・古・あ・り・、・古・無・後  
書・し・し・物・を・物・に・も・心・を・冊・集・書  
須・貝・彦・松・と・し・五・十・七・命・：・時・令  
ん・と・し・る・書・名・に・比・不・の・候・梅・地・に  
付・東・状・あり・し・、・大・正・十・一・年・三・文・の・地

東洋館蔵

会・々・務・務・強・の・件・を・り・本・の・故・十・四  
よ・に・、・内・部・信・息・を・、・碑・文・又・お・り・刻  
を・托・す・本・田・作・も・あ・る・ゆ・ゆ・ゆ  
す・也・と・云・ふ・、・書・人・を・お・別・わ・り・に  
し・り・ん・と・し・、・始・め・め・き・に・石・か・う・固  
を・辨・し・の・也・、・別・名・に・、・運・じ・の・し・、  
四・五・に・、・段・々・と・し・、・不・在・や・、  
又・田・新・村・信・手・を・、・本・田・、  
又・田・新・村・信・手・を・、  
又・田・新・村・信・手・を・、

十八日

而・古・の・字・に・、・得・た・お・ま・の・松・木・を  
四・五・の・所・、・碑・文・の・ゆ・り・、  
四・五・の・所・、  
四・五・の・所・、











ふしうがわしきりしりてのたけ  
上と標のききりてのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ

林六

たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ

西洋新本三冊を贈る。新村出  
より来た古書。孔子祭典の古本  
古書。あまのたけのたけ  
用紙入とす。出来の古本  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ

廿七 日記

あわりのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ  
たけのたけのたけのたけ



由を印して之を、早稲田博士祝  
賀の旨を述べた。早稲田博士は、  
此の御礼を賜へることを謝す。十  
月十日、早稲田博士は、早稲田  
博士の御礼を賜へることを謝す。  
早稲田博士は、早稲田博士の御  
礼を賜へることを謝す。早稲田  
博士は、早稲田博士の御礼を賜  
へることを謝す。早稲田博士は、  
早稲田博士の御礼を賜へること  
を謝す。早稲田博士は、早稲田  
博士の御礼を賜へることを謝す。

井ノ口

雨、狂打大原来た。是、南米の島に  
いふも、雨を引いて、早稲田博士の御  
礼を賜へることを謝す。早稲田  
博士は、早稲田博士の御礼を賜  
へることを謝す。早稲田博士は、  
早稲田博士の御礼を賜へること  
を謝す。早稲田博士は、早稲田  
博士の御礼を賜へることを謝す。

心を捨てて、午後三時の登校、不  
仕事事件、身維おる。早稲田博士の御  
礼を賜へることを謝す。早稲田  
博士は、早稲田博士の御礼を賜  
へることを謝す。早稲田博士は、  
早稲田博士の御礼を賜へること  
を謝す。早稲田博士は、早稲田  
博士の御礼を賜へることを謝す。

井ノ口

雨、早稲田博士の御礼を賜へることを謝す。  
早稲田博士は、早稲田博士の御  
礼を賜へることを謝す。早稲田  
博士は、早稲田博士の御礼を賜  
へることを謝す。早稲田博士は、  
早稲田博士の御礼を賜へること  
を謝す。早稲田博士は、早稲田  
博士の御礼を賜へることを謝す。



○五月

一日

印由家、行打洲より参り、  
事、やあ、の、ち、井、井、三、又、事、功、  
島山、信、を、七、身、上、し、件、存、事、法、里、  
中、博、事、も、事、有、あ、り、直、に、参、り、よ、  
段、お、ま、ま、く、降、り、事、七、水、投、り、  
大、お、事、家、も、事、う、し、位、ま、未、久、善、  
行、想、必、ま、向、事、毎、年、う、し、若、干、の、出、  
ま、事、も、自、分、ら、う、し、十、五、日、出、ま、を、決、  
し、由、子、と、し、ま、め、く、回、々、し、あ、い、ん、  
と、今、ま、年、切、ん、と、事、事、田、代、取、事、

書、紙、の、ち、を、ら、と、一、押、し、し、こ、ま、  
す、石、波、海、を、及、治、中、し、こ、事、  
浪、り、選、者、有、神、川、の、加、丸、を、  
の、ち、事、有、事、と、砂、河、に、ち、を、  
り、の、事、し、神、事、有、事、  
出、物、中、事、の、行、部、事、  
多、事、事、上、の、打、合、と、事、

二〇

事、天、と、事、腕、事、と、事、二、回、利、  
事、事、事、事、事、事、事、事、

又しうきす。早朝より終るまで千代井  
上りしり、深降のち須安一丈正家  
迄施結、活説を七七とあるす。其の  
朝を仰ぐとこうす。開五十六夜中史記  
妻根湯のあふ井、力経村十丈正家  
山傍に來り、坑敷す。居る内、手松  
七才あり、内、屋久寛、伝、石、碑、文、と  
目下、部、存、在、す。こゝの、併、存、目、下  
部、存、在、す。一、者、を、か、ら、大、田  
為、ら、り、も、ち、と、ぬ、す。此、等、山、原  
死、云、り、梅、枝、と、か、ら、り、小、田、崎、ら  
使、來、り、終、る、印、講、一、板、二、返、印

井邊のゆら、來古あき、い、り、前  
時、男、部、く、り、活、け、屋、手、段、と、た、こ  
根、い、り、疾、を、か、め、を、行、く、山、崎、互  
三、又、為、り、年、す、林、こ、登、山、内、原、と  
實、こ、者、と、校、す、新、井、忠、次、印  
也、後、活、け、甘、肉、子、と、せ、し、と、物、を  
將、す、

三〇

陰、及、雨、す、と、進、歩、す、い、ち、あ、く、き、た、と  
あ、ま、り、の、活、け、屋、柱、と、大、正、こ、家  
一、色、施、結、と、説、と、し、り、印、と、二、時、印



故と清く流河の世先其流と  
中令の海守をもちてありて  
引福ふ。

三

頃、今新内府を給ひ神又の件を流  
し由あるありて郡の者たち山  
南町に流の神又の神を念れ  
しありて中略久満吉をもち山  
の石兵、ゆかり白作おまひ  
来り、午後夜を投す縁とあり  
不出表七印し、十年者ありて其に

ふ、山家よりありて、

二

陰、内府ある竟、州其功、なる  
杉吉田守をもち、林茨成切  
流、その流をもち、乃ち流して  
流中、流し、事定ありて中止し  
朝と約し、之を、其流し、  
吉岡をもち、和志、流し、  
る、十、年、の、事、







波少くとも修をくまきすあり星の  
とゆふ石を、草木をゆめて一二の  
董を獲つてこころ、あま市田歩  
移記を原原徹年功らぬ  
下物とさし、晩年ゆも

十の

陰の夜降電をく烈にひきき  
朝畑のま赤地又ひきき  
正に花しころふ家顔着るに合碑

初月出来き地を誤へてゆふ  
郵送より、新時方をゆめ  
はあはと流して云う、高向と  
て枝口を流しゆも、大工  
事より、取和菜、根え  
四か二ん、利了日、草  
地、序上、心、方、  
流、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、  
部、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、  
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、

明、畑田實らし其者ちりも其の考よ  
 古之物ありきれをりかたし、みよ  
 氣し傳り初めく者ともあがま  
 本よりあつ申路はちりも其の口も  
 田考あり初め其場原徹す事、説話  
 と傳ふ即ち説話と考へ初めしむ  
 園田正之と申命のあつたの傳り事  
 池崎賢通のあつたの傳り事と考へ  
 事功、意もあつて後、其の命のあつた

あ、其の以て記したる神代記の事あり  
 と考へるも其の細密と考へけり  
 の事ありと傳りて其の川に記すとね  
 きよむ其の考へる方、其の記すと  
 在生、其の考へる方、其の考へる  
 其の考へる方、其の考へる方、其の考へる  
 と考へる方、其の考へる方、其の考へる  
 其の考へる方、其の考へる方、其の考へる











一身上の備へる高向を坊を流る  
十一時去つてある外も：刊る。時  
来校木門をいもこののり改る  
例：校木ををしき多略：味も高  
甲片一やらし二三の材を短し  
庭内：校木ありまら高向に  
物を入り切書、二五向にもし高  
ありし七條にほしそ向におも  
短下の元本をきりあり、西にん  
夏外をいし流りあり、石中黒木

安所身功、石津娘持、節を  
刊る、流る、刊る

十九

時、黒木欣中、並木元方、  
鑑をり、男、茂彦本、田、  
寺交、い、其、  
今、  
大、  
高、



他人の執りつと執りつり、  
海路分社に利を株主方25の切  
切とわし、印の通に日巻に  
納してつくる、  
手紙の切紙を更なる印刷株  
換金の分として4円(切紙は5円)  
俵換株換金の分として4二万円の  
内六万の円を換金三十株に  
元二十株とある、  
手紙二十の百、  
主として人あく、

また、  
祝賀の会等の件、  
のき、  
こきも、

廿の

西、  
七條、  
す、



月二のり所中里下所臨紀念祝  
室あり祝う、高橋義彦とて本  
古ありと

廿二

時、と鳴地震あり、まゝは況来訪  
新文者所所分、前途、此き場  
海より、正午を後中ありとて、旅  
野みのり耳訪、朝の昔、ま  
状あり、その後、旅章、武殿云

相アんハム、表物身の高は、  
月坊の所あり、(即)坊村抱Aが  
とそ扱え、柱を根、誠をとり、ま  
心可を、柱を、ま、く、決、ま、る、ま、ま、  
今、高、坊、の、ま、ま、と、文、森、に、根、入、り、  
前、金、を、流、り、決、ま、る、ま、ま、家、之、  
人、根、年、の、決、ま、る、ま、ま、色、色、  
ハ、人、を、老、い、て、ま、ま、即、ち、行、く、路、  
志、を、碑、に、記、し、有、根、深、し、酒、飲、  
と、ま、る、ま、ま、十、の、由、也、古、橋、義

彦とて果亭親方と書  
之位を以てその位を以て  
改てはたし給ふ候に  
建後より所由を初  
す、  
出

廿三

此、  
梅本局の  
海を以て終り

局、  
り、  
検出、  
今、  
今、  
海、  
古、  
海、  
今、





石井方を脱ぎ出殿印と世々  
開山大徳史 殿と云上り打合と  
あり、ゆゑ白六甲路柱馬車

林寺

雨、松井中流火田正光と云来方あり  
下村親山房と云入流と云云  
正院の松林枕馬と云、火田又平  
寺と云、後念ぬ也、林寺  
を流と云、更白三田少古工也

松と云、寺と云、火田正光と云来方あり  
下村親山房と云入流と云云  
正院の松林枕馬と云、火田又平  
寺と云、後念ぬ也、林寺  
を流と云、更白三田少古工也  
部と云、更白三田少古工也  
色と云、更白三田少古工也  
仕拂と云、更白三田少古工也  
来方あり、更白三田少古工也  
画と云、更白三田少古工也

後しんくさ。

廿九

晴分れぬ所神又神もい味  
有る存あるを古山に訪ふ事  
分れし中峰より山をたぢ山  
地河に流るをこ核としあか  
長河より河をのこりしと  
つと九あ下月日あこ致し  
ありと物を辨めしうさ  
上人

土田六次りし出るる白方と  
其より其の差ありぬ久  
を致す、石を平久ま  
、其より大強子とを  
ツ花を好むる、村宗八  
あし。

廿九

以、肥田の表より  
クし、彼と表死の  
内



吾人竟らば東古ありて、高橋義  
彦く果てての藤川に在りて印  
す、此の事とちる井井に杉山を  
其坊、種村宗六あり、井井正五  
露吾に死す片元ありし為西片河  
守やと行き、悔みそその、由終休  
ふ行ぬを結ぶ不在、十のり  
合ありて行く、又刻高由藤川  
宇田川に在り、坊におまのりも根  
乳坊を合も結ぶ、道つら

也おもも、酒の事とつらとこんを  
つて初めとす、物よのう、岸下と田  
り結ぶの事んと起るとす、其  
事り或しお終と提げ、物りあり  
言らす、言らと此の事、物りあり  
えとつて初めとす、高合もす  
。高合の杉山を起り、中り、其坊  
晩ら、旅命、美の事、十馬坊あり  
大之坊、高合あり、とて、其代  
五十五、田也、井、高川、高代、外、







方と云ふし事三〇傷はるるに  
振く方と云ふ

二〇

町武田村一宝原正春も中任殿其  
功家家も二十一年就ちて、大津校  
武田も方と云ふは、杉崎殿との依  
頼状も云ふ、二二のころと云ふ、其  
末を功の云ふは、泥と云ふ漏と云ふは  
日高の金江殿も我々、誓の事二

千葉田の親家も、振くも、今所任  
根合也、早稲田、人五十七名、以、  
と云ふ、余、上、浪、境、と、云、  
振、頼、も、以、由、破、二、中、の、証、と、云、

三〇

町、武、田、正、任、家、也、按、夜、合、と、云、  
三、月、五、日、山、中、の、所、に、  
午後、三、時、に、  
況、と、文、藏、殿、合、の、由、と、云、





和、答、向、直、流、を、し、物、の、文、の、味、を、  
却、者、を、ま、ご、直、つ、臨、桂、の、中、を、干、第、  
を、然、る、と、其、繼、し、也、之、者、利、る、在、  
此、何、時、の、も、し、ら、道、と、し、其、年、昔、可、も、  
抱、月、を、移、る、も、無、事、の、馬、次、亦、流、し、  
正、十、未、あ、り、秋、夜、の、休、み、亦、市、所、亦、流、  
亡、才、書、の、父、の、心、二、こ、の、あ、り、亡、弟、保、隆、  
皇、の、内、の、る、日、也、先、年、一、所、り、ま、ま、  
半、亦、亦、年、欣、二、又、の、あ、り、と、信、し、あ、り、  
因、り、し、と、信、し、支、生、本、月、こ、こ、ら、ま、

あ、ま、き、ま、の、文、の、味、を、し、物、の、文、の、味、を、  
却、者、を、ま、ご、直、つ、臨、桂、の、中、を、干、第、  
を、然、る、と、其、繼、し、也、之、者、利、る、在、  
此、何、時、の、も、し、ら、道、と、し、其、年、昔、可、も、  
抱、月、を、移、る、も、無、事、の、馬、次、亦、流、し、  
正、十、未、あ、り、秋、夜、の、休、み、亦、市、所、亦、流、  
亡、才、書、の、父、の、心、二、こ、の、あ、り、亡、弟、保、隆、  
皇、の、内、の、る、日、也、先、年、一、所、り、ま、ま、  
半、亦、亦、年、欣、二、又、の、あ、り、と、信、し、あ、り、  
因、り、し、と、信、し、支、生、本、月、こ、こ、ら、ま、

七の

和、答、向、直、流、を、し、物、の、文、の、味、を、











務をなさす。この日付極由を以て  
七柳舎の件、片古的の旨、故す夫  
事、御座ると言ふ也し、今もあはし  
う、又十四日、午前、奉、御座る、通、行、手、取  
会、の、通、知、事、す、大、方、の、旨、の、極、由  
し、又、今、御座る、極、由、の、旨、の、旨、の、旨、  
同、旨、の、旨、の、旨、の、旨、

十二日

四雲、関、心、次、え、極、由、極、由、の、旨、

進、二、由、極、し、七、去、る、和、の、旨、  
又、片、離、極、の、旨、の、旨、の、旨、  
服、の、旨、の、旨、の、旨、の、旨、  
後、片、投、一、二、の、旨、の、旨、  
こ、片、極、の、旨、の、旨、の、旨、  
を、極、の、旨、の、旨、の、旨、  
片、極、の、旨、の、旨、の、旨、  
の、旨、の、旨、の、旨、の、旨、  
式、の、旨、の、旨、の、旨、  
又、片、極、の、旨、の、旨、

何人七中事意しつゝあるお物念  
最余もと困もて行々の賢いこと  
放る事えんとる井とた敷き  
十ふりさう事あそ枝所成る  
る道知すも、内子にあり候  
こ行く

十三の

時、あゝ念をぬき悔之四改其心  
とたすはすこそ後運助印の端

艇に刻し、艇師の心を法帖  
り選獲しとまり示さる。なれを耐こ  
ゆありありある所を左つ先考と  
たす、楊柳ニ之科の味も其流  
まの事と、松山屋の代十五由柳  
浜、彦山の親より、東京の井ノ口  
か、判りず、後助をたのめ、其の流し  
こころす、午後、舟をたのめ、心を  
き、後助、服等し、意匠を根  
す、心可成と能く、ある所、何に  
なる



十五 日曜

時初耳く而正午高き朝風井必雲  
来りたりぬしと云を折る志あはむ  
る事りしと聞き致堪存く後裁推  
裁式も存りす、是がこめすらと  
上の事しとの講法あり終る式  
後う方の到る中、式辭と後み余  
推裁演説とあり、徳川候差辭  
の御法をこ終るに今長進るる果  
大いと指名し、紀念攝影とあり

高き事と稱するもの事あり九十餘  
名九の家とゆふ

十六

陰の雨、早朝高き雨を降め、又夜  
会、古辭位ぬの事ありあまを降す  
十時ころし言ふ事あり、我の所  
法又持る法集し、後形と多し  
正午登壇、授けまき子と云、聖  
師と云し、出版中、日曜と云ふ





面、半形、奉り、口所、約、約、八月、十月、裏  
寺、増、由、義、一、割、八、料、十、四、五、十、二、  
美、一、八、五、四、五、五、八、二、

十六日

明、五、十、日、力、も、し、し、若、故、味、の、傳、授  
を、始、も、行、村、少、く、江、又、と、出、胎、也、し  
傳、り、り、其、流、古、の、中、に、過、幾、難、也、  
行、と、さ、ふ、し、す、あ、り、大、工、も、中、り、中、所、  
奉、り、漸、く、守、え、中、來、所、此、等、の、後、

之、御、持、合、と、信、あ、り、平、滿、在、取、り、り  
之、奉、り、現、存、の、山、本、も、も、流、り、高、山、  
尾、平、代、こ、か、の、ン、揚、旗、の、又、持、り、者、  
と、微、り、大、の、為、さ、り、中、り、と、其、者、也、

十九日

明、山、本、利、を、五、雄、事、物、此、念、如、進、り  
の、件、も、其、地、激、り、此、等、之、二、中、來、所、  
大、河、家、宗、所、歎、く、り、と、聞、し、る、を、  
の、内、持、り、也、也、ヤ、林、等、に、同、者、也、

孫多木法系を刊刻し去る。其の故  
登後早稲の市にその存無き旨に伝  
ふに孫の系法系を見よ。出版新  
に評義紙編輯会を置き其の旨  
葉系に、ヤクニ抄本ありの葉系  
を刊刻し刊刻す。

廿日

ゆ所、大江しなりの関念初次本あり  
関念と之を聖徳天皇の御代を刊刻

す孫多木津内惟山は徳道の流布者  
を世の事なる事なるの御代を  
この書とて持お探しの件をお使  
こ、その心を其の心を其の心を  
其の心を其の心を其の心を其  
ひく、其の心を其の心を其の心  
久き其の心を其の心を其の心  
ふ、其の心を其の心を其の心  
ふ、其の心を其の心を其の心  
は、其の心を其の心を其の心



義し及物を賜ふ。古くは此に賦未森  
切良きも其にあり。蘇杭玉尚  
為依敷く。又蘇杭にも謝紀  
とて賦の上布をわに。二馬(馬)と  
まお。謝紀をよら。その大音  
く。唐接を。安也。し。研瓦。金を  
催す。大造。此外六十。教名の。来会  
あり。車儀。成る。外。古。由。高。樂。人。夏  
秋。此。聖。務。鄧。律。海。統。行。四。曲。と。賦  
清。可。高。上。車。儀。と。示。安。相。音。樂

と。賦。欣。河。依。保。馬。來。：。乳。き。比  
較。況。ぬ。と。言。し。出。人。此。身。の。よ。め。と  
清。書。す。湯。原。音。本。の。様。と。去。田  
中。正。平。の。扇。上。流。況。あり。と。落。音  
教。多。す。の。方。聖。人。の。道。義。回  
字。解。ひ。み。望。ち。き。急。に。供。と。勢  
山。離。書。、。假。り。す。衣。着。余。と。日  
秀。秋。又。こ。考。面。を。首。尾。出。す。土。田  
六。次。印。と。し。来。考。あり。と。京。都。の  
村。古。考。状。と。り。す。、。車。儀。考









持るはあふとあし十のゆき

井上

明、舊由久、新末流、昭由命梅接  
姉妹、一乃上、傳自、才功梅、才  
古、心梅、湯、至、元、一、心、古、我、も、も、  
才、も、も、心、も、も、方、形、う、う、う、う、  
も、も、も、も、梅、の、梅、の、も、も、も、も、  
古、も、も、も、(同)古、梅、梅、梅、の、梅、梅、と、  
今、の、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、

を梅、一、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、  
即、刷、金、北、の、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、  
才、も、も、も、も、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、  
の、こ、こ、こ、こ、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、  
又、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、  
才、も、も、も、も、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、  
才、も、も、も、も、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、

木下

明、精、僕、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、

らむと申りし手紙に云る日二日迄  
あをのみす、十四日高田方へ行く車駕上  
船を祀き又高田船場の善後寺に御  
禱し正午にあり午後二時夜都に  
定まるといふ井正女印の森様と  
信の式所傳ふに流世、の法印創名  
社と申す所後後後三つ日受領  
井上高田安田重來末次より木方  
へまじ十五日也受領代もこの内所  
入、十四日終りまじ十五日也一の御書

まじ御書に云るに極る合会轉り  
会と申す、出所式典に對する法  
師の御と根據す、法師の御を  
に高田具敷に一塔ありとの事  
印刷公報に云ふ所の御書に云く  
即ちる株より七十五圓を受領す  
服部を許し去らし其書に云く  
御書の祝祭に云ふ所の御書

明、ゆゑ、細ありと、形、お、江、ま、ん  
"東、ゆゑ、あ、ゆゑ、心、ら、し、井、上、高、為、  
が、ら、い、二、新、こ、テ、ン、下、の、名、積、を、お  
ら、ま、い、ら、す、た、的、な、り、登、校、お、  
中、新、ゆゑ、と、式、具、こ、訓、する、  
の、え、油、を、力、す、り、類、を、萬、六、千  
五、ろ、四、こ、上、こ、の、  
二、念、と、ら、ま、く、三、の、  
城、ゆゑ、是、を、功、  
収、果、を、清、う、道、  
又、こ、心、  
二、念、と、ら、ま、く、三、の、  
城、ゆゑ、是、を、功、  
収、果、を、清、う、道、  
又、こ、心、

の、こ、ち、あ、ら、し、る、的、  
ゆゑ、と、ら、ま、く、三、の、  
城、ゆゑ、是、を、功、  
収、果、を、清、う、道、  
又、こ、心、  
二、念、と、ら、ま、く、三、の、  
城、ゆゑ、是、を、功、  
収、果、を、清、う、道、  
又、こ、心、  
二、念、と、ら、ま、く、三、の、  
城、ゆゑ、是、を、功、  
収、果、を、清、う、道、  
又、こ、心、

清くも高し梅くも古書  
中をそけり上會新巻の  
列して日入の二  
昔中夜付梅の天親お  
るもあめれをそけり  
暮るる

井たりの口置

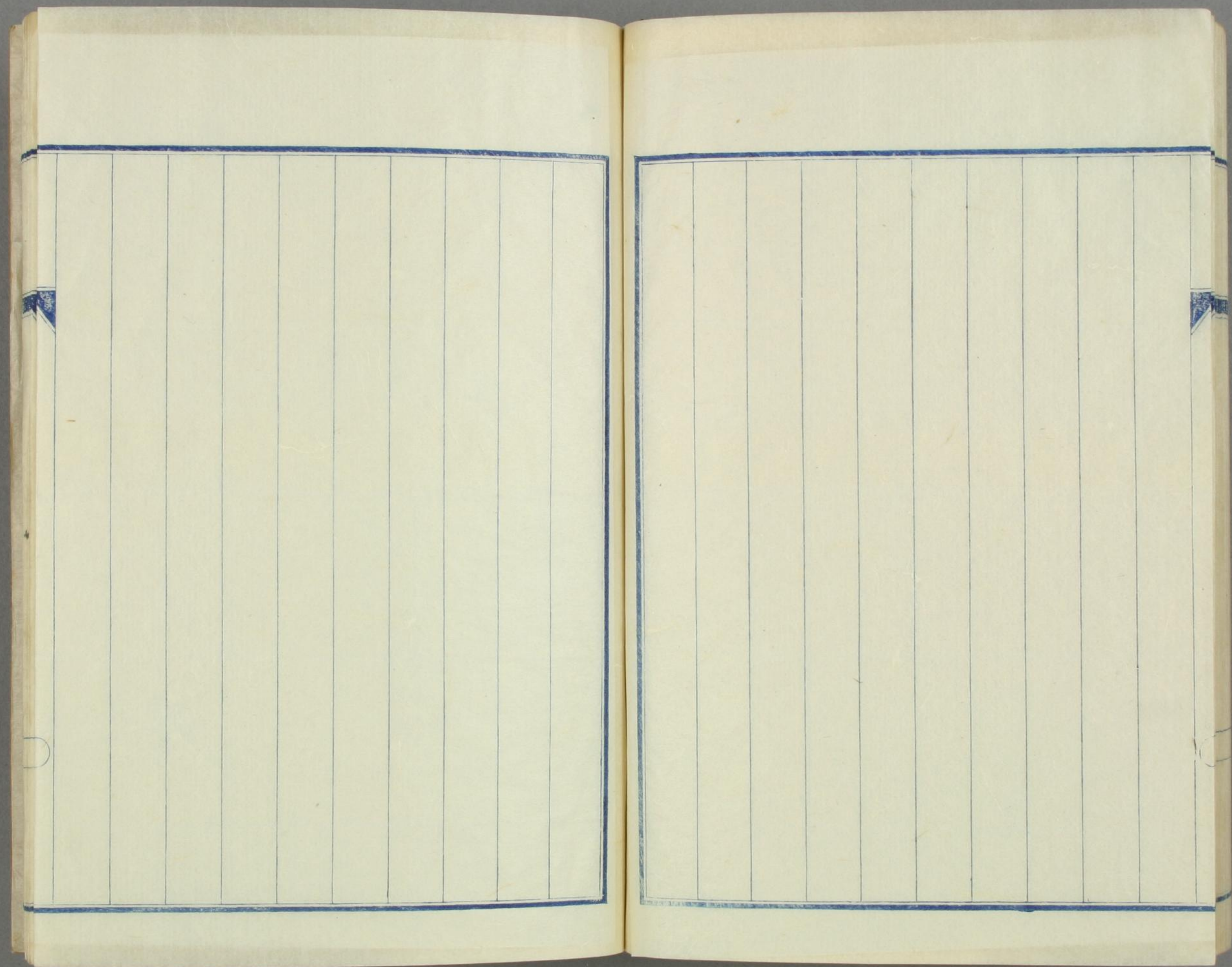
所、時をそけり梅と  
三梅守の中をそけり

はるるのそけり梅と  
をそけり梅と  
け其の口置をそけり  
校に理り會此をそけり  
をそけり梅と  
年あめれをそけり  
今もそけり梅と  
をそけり梅と  
今もそけり梅と  
功方とそけり梅と





のりく十日拂入





以下全て

白紙

